

総合計画フォーラム

これからの北広島のまちづくり レポート

とき

平成22年3月11日（木）18時00分～20時30分

ところ

北広島市芸術文化ホール

プログラム

説明 北広島市総合計画（第5次）原案

講演 地域の宝を活かしたまちづくり 林 美 香 子 氏

ピアノ演奏 矢 崎 由 佳 氏

パネルディスカッション これからの北広島のまちづくり

コーディネーター 村 山 紀 昭 氏

パネリスト 稲 田 保 子 氏

久 保 田 智 氏

林 美 香 子 氏

上 野 正 三

説明 北広島市総合計画（第5次）原案

このフォーラムに先立ちまして、次期総合計画の原案について、簡単ではございますが、説明をさせていただきたいと思います。15分ほどおつき合いをお願いいたします。

説明は、この緑色のパンフレットが参考になると思いますので、これをめくりながらお聞きいただきたいと思います。

まず最初に、総合計画というのはどういうものかというお話でございますが、緑色の紙の1ページ目、下に四角い枠の中に示しているように、10年間の計画となっております。

内容といたしましては、まちづくりの目標である将来の都市像ですとか、その都市像を実現するためにどんなことをやっていくかというものを示した計画でございます。市がそれに基づいて体系的に、計画的に事業を進めていく、その指針となるものでございます。

次の総合計画は平成23年度からスタートいたしますけれども、そこでは、基本構想を10年間と考えておりました。その下に、この紙の2段目に基本計画というのがございますけれども、基本計画も10年間の計画と考えております。ただ、基本計画は必要に応じて中間の年で見直しを行いたいと思っております。

ただいま総合計画の原案について、市民の皆様の意見を募集中でございますけれども、現在できている原案というのは、この基本構想と基本計画の部分でございます。

その下に、より具体的なことを示す推進計画というものがございまして、これは3年間の計画になりますけれども、これは平成22年度に策定してまいりたいと思っております。

この計画を策定し始めたときの考え方は、1ページ目の一番上の右側に書いてございます。

まず一つ目は、北広島の課題というのは、行政だけではもう解決できないので、市民や事業

者の皆さんと行政が一緒になって進めていく計画にしようと思ってきました。

二番目といたしましては、わかりやすい計画ということで、まずは計画の内容や表現が市民の皆さんにとってわかりやすいように工夫すること、計画で言っている目標ですとか重点がとらえやすいような計画をつくろうと進めてまいりました。

三つ目といたしましては、地域経営の視点を持つ計画ということでございまして、北広島市全体を良くしていこうという考えで計画をつくりますので、市民ですとか事業者の皆さん、市民団体の皆さんとともに、地域の経済も発展させていきますし、まち全体も活性化していくという趣旨で策定を進めてまいりました。

1ページ目の中段には、市の現状や時代の潮流などを幾つか、大雑把ではございますけれども、載せております。

「市の現状と特色」では、人口について、平成13年から平成21年の間を見ると2,000人ほど増加していることなどの現状、特色を述べております。

また、2番目の「市民の意識」では、平成20年の9月に市民意識調査を実施いたしました。その中で、市の現状の満足度ですとか、今後の政策の重要度などを聞いておりました。そこで出ました答えの概要を載せております。

三つ目の「時代の潮流」では、少子高齢化が進み、人口減少の社会に入ったこと、低成長の経済や地球規模の環境問題も起きている、地方分権もどんどん進展していきだろろうと、こういった時代の流れの中にあることを書いております。

これらの現状ですとか時代の潮流を押さえた上で、これまで総合計画の策定を進めてまいりました。

続きまして、資料を開いていただきまして2

ページ目、ここに基本構想の概要、全体像が載っております。

一番上に、まちづくりのテーマといたしまして、「自然と創造の調和した豊かな都市」というテーマを掲げております。

北広島市では、昭和45年に最初の総合計画を策定しました。10年ごとに新たな計画をつくってまいりまして、平成23年度からスタートする計画は第5次の計画になります。

この「自然と創造の調和した豊かな都市」というテーマは、昭和45年当時から一貫しており、次の計画でもこれをテーマといたします。

その下に、めざす都市像といたしまして、希望都市、交流都市、成長都市という三つの都市像を掲げさせていただいております。

この都市像は、総合計画審議会での議論をきっかけとして生まれて、設定させていただきました。総合計画全体の中で、だれが見てもわかりやすい言葉ですとか、見ただけでイメージが伝わるような言葉が必要だということで、希望都市、交流都市、成長都市を設定しております。

希望都市のイメージはどのようなものと申し上げますと、子育てがしやすいですとか、若者の働く場所がある、また、高齢者の知恵ですとか能力をまちづくりに生かしていける、こういったことに焦点を当てて、すべての市民の皆さんが希望や夢を持てるまちをつくりたいというのが希望都市でございます。

二つ目の交流都市というのは、近隣のまちと北広島とは大変行き来が多いという特徴を持っております。そういうものを生かして、市外の方々との交流を大切に、市民同士も生き生きと交流する。また、それだけにとどまらず、産業面でも活気があるまちを目指すために交流を深めるというイメージでございます。

成長都市のイメージといたしましては、本市は道内の市町村の中では数少ない成長の可能性のあるまちだと考えております。人口ですとか産業、そういった面だけにとどまらずに、まちの魅力をアップして、着実に成長を続けていき

たいというのが成長都市のイメージでございます。

その下に基本目標を六つ掲げさせていただいております。

基本目標の一つ目は、「支えあい健やかに暮らせるまち」をつくることございまして、これは健康ですとか福祉、そういった分野でいいまちをつくろうということです。

二つ目は、「人と文化を育むまち」で、ここには教育ですとか文化、スポーツ、そういった分野のことが入っております。

三つ目といたしましては、「美しい環境につまれた安全なまち」、これは環境ですとか安全のこと。

四つ目は、「活気ある産業のまち」。

五つ目は、「快適な生活環境のまち」で、生活ですとか都市基盤のことをうたっております。

最後に、このページの下で、五つの基本目標を支えるような形で基本目標6番があります。ここは計画の実現に向けて、主に行財政運営ですとか、地域での活動のこと、そういったことが書いてあります。全体に共通する内容で、計画の推進を支えていくというイメージが基本目標の6番でございます。

続きまして、資料の3ページでございます。

まず一番上は、「将来人口の設定」でございます。

日本の人口も北海道の人口も既に減少が始まっており、これまで北広島として何度か総合計画をつくってきた中では初めての状況でございます。

こういった人口減少の時代で、10年後の人口をどう見るかということですが、答えといたしましては、10年後の平成32年の将来人口を6万1,500人と設定してまちづくりを進めていこうと考えました。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、32年には6万3,000人ぐらいになるのではないのかといった推計もございましたが、それは基礎データとして人口が伸びている時期のデータを使っていたもので

す。近年の市の人口の状況を見ますと、横ばいもしくは若干減ってきているという状況になっております。市で独自に推計しますと結構低い人口になってしまいました。そこでさまざまな人口増加策をとることによって人口を何とか6万1,500人に持っていきたいというのが人口の考え方でございます。

次に、同じ3ページの真ん中に、「計画の進行管理」がございまして。

計画はつくることにはかなりのエネルギーを費やしますが、実はできてから、どのように目標を達成していくかが大事でございますので、その点を次の計画では重視していきます。重点プロジェクトなどを設定しまして、関連する部局が横の連携を取り合って進めていきたいと思っております。

3ページの下は、「総合計画の指標」で、事例が五つ載っております。本当の原案の中には51種類の指標が載っておりますが、その中から幾つかここに載せました。それぞれの数値について、5年後の目標値と10年後の目標値を掲げていて、この目標に対してどの程度進んだかで、進行状況もチェックしていきたいと思っております。

次に、資料の最後の4ページでございまして。

重点プロジェクトについてここで述べております。総合計画は非常に幅広い行政の分野全般にわたって書かれている計画でございまして、全体を分野ごとに見ると、何が重点なのか、どこに力を入れるのかがなかなかわかりにくいので、重点プロジェクトを三つづつすることで、市が力を入れたいことをここでわかりやすくお見せしております。

そういうメリハリをつけるとともに、重点プロジェクトでは、横の連携を大切にしています。一つ目は、「子育て支援・人づくりプロジェクト」ですが、このプロジェクトは、健康、医療、子育て、学校教育、それから社会教育、文化、スポーツ、いろいろな分野にわたっております。

例えば子育て一つとっても、いろいろな側面

から行政はかかわるわけですが、それを各分野の部局がばらばらにやっていると、場合によっては、一つの分野だけで考えると効果があるかもしれないけれども、総体的に見ると不都合なこともあるかもしれない。そういったことを解消するために、関連する部局が集まって、一緒に政策を考えていこう、プロジェクトを進めようといった考え方に基づいているのが重点プロジェクトでございまして。

二つ目といたしましては、にぎわいや魅力をつくっていくためのプロジェクトです。

三つ目は、「住みたくなる地域づくりプロジェクト」で、今住んでいる方々は安心して暮らせて、ずっと一生住んでいただきたいですし、できれば近郊のまちからでも新しい住民の方がどんどん入ってきていただきたいというプロジェクトです。そういったねらいを持ちまして、これら三つの重点プロジェクトを掲げております。

短い時間で、大雑把な説明でございましたが、そろそろ時間もまいりましたので、説明はこの辺にさせていただきたいと思っております。

原案全体というのは、実は97ページからなる分厚いものでございます。これは受付に用意してありますので、もし御希望の方がいらっしゃいましたら、お持ち帰りいただけたらと思っております。

ご清聴ありがとうございました。説明を終わらせていただきます。

講演 地域の宝を活かしたまちづくり

慶應義塾大学大学院教授

キャスター・エコライフジャーナリスト

林 美 香 子 氏



皆様こんばんは。

きょうはこのフォーラムにお招きいただきましてどうもありがとうございます。

JRに乗ってきたのですけれども、駅においたらものすごく大きな看板があって、皆さんたちはお気づきでしたか。駅は通らずにいらした方ばかりでしょうか。すごい大きな看板とびっくりしながらこちらの会場にまいりました。

きょうは前段の講演で30分ほどお話しさせていただいて、また、ピアノ演奏の後のパネルディスカッションにも参加させてもらいます。よろしくをお願いします。

今御紹介いただきましたが、少し自己紹介させていただきます。

私は札幌生まれ、札幌育ちで、ずっと札幌にいますが、2008年から慶應義塾大学の特別研究教授で、月に1度とか2度、横浜の日吉にある校舎なのですが、そちらで教える仕事もしております。

私はもともと北大の農学部を出た後、STVのアナウンサーになりました。これはとてもラッキーなことだったのですけれども、その話をしているとちょっと時間がなくなるので、きょう

うはどんどん前にお話を進めていきますが、アナウンサーになったときに、せっかく農学部を出てアナウンサーになったのだから、農業に詳しいアナウンサーを目指したらいいのではないかと先輩たちにアドバイスを受けて、仕事をしながらそのことを実践しようと思ってきました。

STVに10年ほどいまして、その後、フリーになったのですが、フリーになった後、本当に食とか農業に関する取材やテレビの番組がふえてきました。

また、地域づくりにもいろいろな形で参加するようになって、いつかきちんと勉強したいなと思い始めまして、それで北大工学部の社会人枠という枠があるのですが、そのドクターコースで「農村と都市の共生による地域再生」という、ちょっと難しいテーマなのですが、そのテーマで研究をしました。それでドクターをとれたこともあって、慶應大学で教えるというチャンスに恵まれたのかなと思います。

去年の夏には、『農村へ出かけよう』という本も出しておりますので、もし御興味がありましたらぜひお読みいただきたいなと思います。

皆さんのお手元に私のレジюмеもお配りして

いるので、ちょっとごらんいただけますか。きょうは春らしくピンクを基調としたレジュメにいただいているのですけれども。

まちづくりと私ということで少し御紹介をしたいと思います。きょうはまちづくりに関心の高い方たちが大勢来てくださっていると思うのですが、まちづくりといっても本当に幅が広いですね。

私自身のまちづくりも、いろいろなことを経験してまいりました。年齢とともに、やはりまちづくりへの関心の分野というのが変わっていくのかなと思います。仕事としてといたしますか、マスコミにいる人間としての役割でもあったと思うのですが、例えば札幌駅の南口の再開発を検討する委員会や、道庁の景観の審議会ですとか、さまざまな委員会にも呼んでいただきました。

それと同時に、私自身の活動として、一番最初に社会的な活動かなと思ったのは、スノーマンというお話の読み聞かせだったのです。クラシックを演奏する友達と一緒に、自分の子どもたちも小さかったときなので、その子どもたちのためにと思って、読み聞かせの活動をずっとしていました。

そうこうするうちに、今はコンサドーレ、J2で、本当に頑張してほしいと思っていますが、たまたま私の友人関係の人たちが札幌にJリーグをつくりたいという活動を始めたのです。それを手伝うようになりまして。アナウンサーという仕事のせいもあって、毎週のように記者会見を手伝ったりとか、チームの話をしたりという活動を続けました。

今、まちづくりの中で一番私が力を入れているのは、札幌市東区にありますモエレ沼公園の活用を考える会というグループです。モエレファンクラブという名前で活動しているのですけれども、もし皆さん、お時間がありましたら、3月28日にはモエレ沼公園でお茶会をするイベントを考えておりますので、ぜひお出かけください。

なぜこういう活動を始めたかという、モエレ沼は、イサムノグチがデザインして20年以上の歳月をかけて建てたすばらしい公園なのです。ところが、やはり今、財政的にも大変で、20年間、ものすごいお金を投じてつくったものですが、それを本当にいい形で維持できるかという、札幌市の財政だけではなかなかうまくいかないのです。やはり市民の私たちも一緒に考え、行動していかなければいけないと私たちは思いまして、活動を続けています。ホームページもあって、いろいろ書いてありますので、ぜひごらんください。

それともう一つの活動が、やはり農業に関係したことなのですが、今、農都共生研究会を立ち上げて活動しています。私は、農村も都市も一緒になって活動していくことで、地域がもっともって元気になると思っているのです。農家に行って農業体験をさせてもらったり、応援に行ったりという活動もしています。こうした都会から農村に出かけていくというのは、まさにライフスタイルも変わってきて、都会に住んでいる者にとってはものすごく重要な役割を持つと思うのです。

そういう意味では、今度北広島に、ホクレンがつくる複合的な施設で、食育ですとか農業体験ができる場所ができるのですが、そうしたものがまた北広島の大きな魅力にもなるのではないかなと思います。

さて、今度は北広島の宝のことでお話をしたいと思うのですが、皆さんたちが北広島に住んでいらして、北広島の一番の自慢できることって何でしょうか。例えば通勤に便利とか、空港に近いといった交通の便をお考えになる方もいるかもしれませんが、緑が多い、自然がすばらしいとお感じの方もいるでしょうし、美しい農村風景が自慢できる等、皆さんそれぞれの自慢があると思うのです。こうした宝を自分たちが気づいて、それを生かしていくことがとても重要だと思います。自然だったり、風土だったり、風景、あるいは歴史、農業などの産業、それが

ら食文化、あるいは人材と書きましたが、私は、北広島市が持っている宝の中で、他の都市よりもものすごく自慢できるのは人材ではないかなと思っているのです。

というのは、きょうも随分仕事でお世話になっている方たちがここに来てくださっています。北広島市の住民でいらしたのですね、とびっくりする方がたくさんいたのですが、教育関係の方だったり、役所で重要な仕事をしている方たちが随分ここに住んでいらっしゃいますよね。そういう方たちが、今、シニア世代を迎えていて、ぜひまちづくりで力を発揮してほしいと思っています。

そうしたたくさんある宝をどうやっていったらいいかという、やはり地域で連携していくことがとても重要だと思うのです。

先ほどの計画の中でも、ばらばらではいけないというお話があったのですが、どうも日本というのはどうしても縦割りなところがありまして、例えば国の制度が縦割りだと、それがやはり役場とか何かにもかなり影響してしまうようなのです。

きょうはさまざまな分野の方たちにお越しいただいており、とてもうれしいのですが、ぜひさまざまな分野の連携を皆さんもっともっと意識して行ってほしいなと思います。

例えば農業でまちづくりも随分今いわれいますが、農業者だけが頑張ってもなかなか進まないのです。農業者がつくってくれた農畜産物を地元の人たちが買って支える、食べて支えるという発想がものすごく重要だと思っています。ですから、消費者だったり、あるいは生活している住民が参加するまちづくりがものすごくこれから重要になってくと思います。

また、コミュニティカフェ、地域食堂と書いたのですが、調べてみたら、こちらのまちにも去年の5月に地域食堂「かえで」がオープンしたと聞いてすごいうれしかったのですが、どうですか、皆さん、かえでを利用したことあるという方、お手を挙げてみてください。

ばらばらという感じですね。ぜひもっと皆さん、利用なさってください。地域食堂はこれからももっともっとふえていこうなと思います。これは利用する側にもうれしいし、運営する側にとっても自己実現の場という面もあるのです。

先日、石狩市にも呼ばれて、こういう講演会をしたら、石狩市ではワンデーシェフといって、毎日シェフの方が替わって、運営するスタイルでやっているそうです。料理自慢の奥さんだったり、お父さんだったり、そういう方が毎日日がわりでお料理をすることができる、それもコミュニティカフェや地域食堂の魅力なのですね。

札幌にもこうしたコミュニティカフェがふえてきて、20何店舗かあるのですが、そういうところが今、スタンプラリーなども始めています。数がふえていくと、みんなでそういうところを回りましょうという楽しさにもつながるのではないかなと思います。

ではこの後、幾つか事例を持ってききましたので、ごらんいただこうと思います。

私は、北海道の場合、農業がやはり基幹産業ですから、農業でももっともっと頑張してほしい



と思っているのです。北海道の食糧の自給率は200%で、すごい自慢しているのですが、これはカロリーベースで、金額ベースでは180%ぐらいに減ってしまうのです。もっと付加価値をつけてもらうことも重要ではないかと思っています。

そういう中で、御紹介したいのが、これは美瑛町のJA美瑛がやっている美瑛選果という直売所なのですが、おしゃれな雰囲気ですよ。見なれたアスパラとかトマトなのですが、木箱に入れているので、雰囲気がいいのだろうと思います。JA美瑛に取材に行きましたら、10

年くらい前は、観光客が来てもごみしか捨てていかないと、農家の人はみんな怒っていたのです。でも、5年くらい前から、発想を変えて、せっかく来てくれる観光客の人に美瑛の農畜産物を知ってもらって、そしてファンになってもらおうと、こういうお店をつくったそうです。直売所と、それから地元の小豆などを使ったお菓子のコーナー、さらに「アスペルジュ」というとてもすてきなレストランもあります。

私は、地元の食とか農を活かすという中では、やはり地産地消はとても重要だと思っています。

これは郷土料理としての地産地消です。道南などでつくっているクジラ汁なのですけれども、例えば石狩だったら石狩鍋などがあると思うのですが、この北広島にもし伝統的なメニューがあれば、ぜひそれを食堂などでも出してほしいなと思います。

それから、右側の上は美瑛のアスペルジュの今風の地産地消メニューですね。美瑛でとれた20種類もの野菜を使ったメニューです。

それから、カラフルなジャガイモですが、今、北海道ではすごくカラフルなジャガイモをつくるようになってきているのです。こうしたもの、ゆでただけでカラフルポテトサラダになりますよね。

どんどんとその地方ならではの地産地消メニューをふやして行ってほしいなと思います。そうすると、観光客も喜んで来てくれると思います。

これは帯広市の北の野菜の人気メニューなのですが、カラフルトマトサラダ、本当にカラフルなトマトを切っただけなのですけれども、とりたてなのですごくおいしいのです。特にグリーンなトマトは、これはゼブラという品種なのですが、グリーンなのだけれども完熟していて、味はすごくいいのです。これが生産地だからこそ出せるおいしいメニューだと思っています。

また、今、道内各地に人気の農家レストランがどんどんできてきているのですが、これは鹿追町の中野さんが経営する「大草原の小さな家」で

す。ここはファームイン、農家民宿もなさっているのですけれども、地元の食材を使ったバイキングメニューで人気があります。昔は普通にランチメニューとかセットメニューを出していたのですが、グリーンツーリズム、農村でゆっくりと過ごす休暇のことを研究しようと、北海道からみんな九州に視察に行ったことがあるのですが、九州では農家バイキングがすごい人気なのです。それを見て、中野さん、すぐに家に電話をして、うちのメニューもバイキングメニューに変えると。バイキングに変えて大成功しています。バイキングにしたことによって、観光客だけではなく、地元のお客さんがものすごくふえたそうです。やはりお客さんの立場からすると、バイキングは食べごたえがあるので、ものすごくお得感がありますよね。多分そういうのが人気につながっていると思います。

それから、ここからも近いですよ、長沼町の「レストラクレス」。長沼は今、農家レストランがたくさんふえましたよね。中でもここは大繁盛しています。普通、レストランは、3回転すると繁盛店と呼ばれるそうなのですが、ここは1日5回転もするそうです。土曜、日曜は300人くらいのお客さんが来るのです。慶應の学生を、秋に農村体験といいますが、農業実習に2泊3日で連れてきているのですが、学生と一緒にここに行ったら、渋滞しているくらいなのです。ちょっとびっくりするほどの繁盛ぶりでした。

この経営をしている干場さんは、新規就農で農業を始めた方なのですが、普通、田舎でここだけがこんなに繁盛したら、周りから苦情が出てしまうのではないかと思うのですが、干場さんが偉いなと思うのは、このレストランのすぐそばに直売所を開いているのですが、その直売所は自分のところの野菜を売るのではなく、御近所の農家に野菜を売ってもらっているのです。なので、御近所の皆さんも、繁盛しているレストランのそばなので、ものすごく売れる直売所だと、喜んでいました。

これは「緑ちょうちん」です。地場産品応援の店、飲んで食べて自給率アップで、普通の日本の食糧自給率は40%ですが、星一つだと50%、星五つだと90%以上で、居酒屋さんとか食堂がこの緑ちょうちんを掲げています。今、全国で2,500ぐらいの緑ちょうちんができていますけれども、調べましたら、北広島にも2軒ありました。北広島の福祉会がなさっているようですが、レストラングリーンパークと、満足屋というお弁当屋さん。どうですか、この2軒は行ったことがありますか。利用していらっしゃいますか。こういうお店がもっともってふえて行ってほしいですね。これは自己申告でいっているの、うそをついてはいけないため、もしうそがばれた場合には、店主が頭を丸めるか、ここに反省と書いたはちまきをするという決まりになっているそうなのですが、こういうお店がもっともって北海道にふえて行ってほしいなと思います。

また、この緑ちょうちんを応援する会というものもあるのです。その応援する会というのは、決まりが、赤ちょうちんと緑ちょうちんがあったら、迷わず緑ちょうちんに行くと、まさに消費者、生活者も利用していくというのが原則ですね。

それから、これは新得町にある人気の農家民宿です。酪農をなさっている湯浅さん御夫妻が経営しているのですが、十勝のすばらしい景色の中、たった1組だけが泊まれるファームインなのですが、1カ月とか2カ月という長期滞在の方もいるのです。こういうところに長期滞在したのをきっかけに、十勝に移住している人も出てきているそうです。そういうきっかけにもなるのだなと思います。

それから、これは農家のお母さんたち、旭川市の「ときめき隊」という地産地消のお料理を紹介するグループです。このお母さんたちは直売所を営んでいるのですが、都会のお母さんたちが野菜料理の作り方をあまりに知らない、冬場、時間があるときに、出前のスタイ

ルでお料理を教えています。巻きずしなどを子どもたちと一緒に作るイベントもやっているのですが、そういう巻きずしをつくった後、子どもたちが必ずいうのが、コンビニのおすしと同じだねというのです。それくらい、今、おうちではつくらなくなっているのです。こういうのは生涯学習とか社会教育の中できちんと伝えないと伝わらない時代なのかなとも思います。

これは道南乙部町の郷土料理の講習会の様子です。80代のおばあちゃん5人が先生になってくれました。「つぼっこ汁」をつくってくれて、子どもと若いお母さんがお団子をつくりました。御飯のお団子なのですね。ふかした御飯をついて、片栗粉を入れてお団子にしました。乙部の若いお母さんたちに、おうちでつくっていますかと聞いたら、おばあちゃんがつくったのを食べているだけで、自分がつくったことないという反応だったのです。どんどん郷土料理が伝わらなくなっているのかなと思います。地域を挙げてきちんと伝えることも必要なのかなと思います。乙部では、郷土資料館の方がこういう朱塗りのお膳をたくさん譲り受けて持っていて、イベントのときに使っているのです。これもすばらしいことだなと思います。

それから、これは商店街でできる地域づくりなのですが、留萌市の主婦のグループが経営している「お勝手屋もえ」というお店です。主婦グループが、留萌にふさわしいお土産を研究していたのです。それを聞きつけた観光協会の方が、空き店舗対策として、最初は夏場だけのお店だったのですが、大繁盛して、今、店舗の数もふえています。

行ったみたら、やはり繁盛している理由がわかります。というのは、主婦の方が買い物客の目線でお店を営んでいるのです。例えば、普通、お土産屋さんだと、箱に入ったお菓子しか売っていないことが多いですね。ところが、ここのお店では、留萌のお菓子屋さんのすべてのメーカーのものをばら売りもしているのです。

そうすると、味見をしてから買うことができますよね。なので、観光客だけではなく、地元の人なども利用しています。正直、留萌の駅前には相当なシャッター通になっていて、あまり人が通っていないのですけれども、ここのお店だけ繁盛していました。すばらしい活動だなと思います。

これは熊本県小国町のお話なのですが、農家民宿は皆さんいろいろ耳にしていると思うのですが、日本で初めての商家民宿をなさったおうちなのです。九州の小国では、「ツーリズム大学」という民間による大学が行われていて、そこにずっと通っていた時計屋さんの御夫妻が、自分たちもできるツーリズムはないだろうかと考えて、古い石蔵とか、おじいちゃん、おばあちゃんが住んでいた離れを上手に利用して、お客さんを泊める民宿を始めたのです。小国もやはり商店街は本当にお店が減ってきて大変なのです。そういう中で、特に時計屋さんというのは、今ものすごく苦戦しているそうですが、喫茶店とかギャラリーも一緒に経営しており、うまく蔵を利用して、すごくノスタルジックな雰囲気のある民宿を営んでいます。奥さんがお料理上手ということもあって、福岡から車で2時間くらい、山の中なのですけれども、毎週のように福岡の方が泊りに来ているそうです。お料理上手な商人の方は、こういうのもこれからの商売として考えられるのではないかなと思います。

ここがすごく人気を得たことで、近所の居酒屋さんが会員制の居酒屋民宿を始めて繁盛しているそうです。小国には人気のある居酒屋さんがたくさんあるのですけれども、隣のまちからも随分飲みに来ているそうなのです。そうすると、隣まちに帰るとタクシー代がやはり4,000~5,000円かかるそうなのです。それだったら、思いっきり飲んで居酒屋に泊まっていくという人がふえているそうです。

これは、四国内子町にある農家民宿の玄関先なのですが、すごくすてきな雰囲気ですよね。これを営んでいる森長さんという方が、内子

の助役だった方なのです。助役をやめた後、地域のためにもと、農家民宿をなさっています。おじいさんの代からの農業なので、兼業農家をしながら役場に勤めていた方なのですが、農家民宿を開いて人を泊めたり、また、大きな広間があるのですが、そこでコンサートを開いたり、本当に地域のコミュニティのための活動だなと思います。

少しフランスの写真もごらんいただこうと思うのですが、これはリヨンというフランス第2の大きな都市の朝市の様子です。毎日朝市が立って、地元の人たちがカゴを持って買い物に来ています。例えばサヤインゲンとかトマトという見なれたものなのですが、フランスの人はやはりおしゃれなかなと思ったのです。白い紙を敷いていることで、ものすごく色鮮やかに見えますよね。

また、近所の農家で作っているチーズを、こういうふうに冷蔵のショーケースで販売しています。

また、山岳のローヌアルプス地方に行ったのですが、ここは牛を放牧して、そこで搾った牛乳でチーズをつくっていて、チーズの認証、AOCをとった、すごく高価なチーズ、ポッフォーチーズをつくってしまして、それが高く売れることもあって、離農がないというのです。代々みんな農業を継いでいるというので、ちょっとびっくりしました。

さらに、ここは農業の補助金とか、景観を守っているのも、景観とか環境の補助金もEUから出ているそうです。これがポッフォアの村の風景なのですが、ピンクのかわいらしい建物は役場なのです。役場の職員がちゃんとお花を飾って、ちょっとかわいらしい感じですよ。

これは農家。これもグリーンツーリズム、ファームインを営むようになって、まちがすごくきれいになったそうです。

これはグルノーブルの近所の農家民宿の様子です。豚小屋だったところを上手に直したそうなのです。すごくおしゃれな雰囲気ですよ。

中もすてきなインテリアでしたが、ここは、人気のある民宿で、夏場などは個人客がすごく多いのだけれども、秋とか冬とか、少しお客さんが少なくなったときには、グルノーブルの企業に出かけて行って、セミナーの誘致をしているそうなのです。そのときに言葉というのが、都会のごみごみとしたところで会議をしてもいい意見が出ない。すばらしい景観の中で会議をすると業績も伸びますよと行って、セミナーを誘致しているそうです。ぜひ北広島の場合も、札幌などに負けないように、いい雰囲気の中でいい会議をしましょうといった誘致もしていくといいのではないかなと思います。

先ほどのすごくきれいな村の中で、80何歳かのおばあちゃんに出会ったのです。そのおばあちゃんは、50年以上前にパリから嫁入りした方だそうですが、その方がこの村に嫁に来て、グリーンツーリズム、ファームインを始めたそうなのです。やはり私たち、ヨーロッパの場合は歴史があるから、昔からこういうふうきれいで、自然発生的にファームインをやっているのかなと錯覚をしていましたが、決してそうではないのですね。始めた人がいたからこそということをお忘れはいけません。

ちょっとだけ最後のまとめの話をしたと思います。

いい足りなかったことは、また後半のパネルディスカッションでもお話をしようと思うのですが、これからは望むこと、情報発信の大切さ。これは北広島が持っているすばらしさをもっともっと情報発信していくことが必要だと思うのです。

ただ、発信するということは、実は情報を受信していないと、自分のところのよさをアピールできないですね。なので、発信するばかりでなく、受信もとても重要だと思います。

それと、北海道の悪い癖だともいわれているのですが、こういうフォーラムはすごい人も集まるし、たくさんあるのです。他府県に比べても、北海道は全国1、2ではないかといわれて

いるくらい、フォーラムが多いのですけれども、ちょっと行動力が弱いといわれています。考えるだけで終わってしまうことがどうも多いようなのですが、まちづくりに関しては、もちろん考えることも重要なのですが、それを実践する、行動することがものすごく重要だと思います。みんな自分のまちをよくしたいとは思っていると思うのですが、そのために何かをするのがとても重要ではないかなと思います。その話をまた後半でもさせていただければと思います。

では、私の時間、30分で終了ですが、熱心にお聞きいただきましてどうもありがとうございました。(拍手)

ピアノ演奏

演奏曲 F・ショパン作曲
ノクターン作品9 - 2
幻想即興曲
小犬のワルツ

矢崎由佳氏



パネルディスカッション これからの北広島のまちづくり

コーディネーター	札幌国際大学長 北広島市長期総合計画審議会会長	村山紀昭氏
パネリスト	蕎麦居酒屋「山海亭」女将 FMメイプルパーソナリティー	稲田保子氏
	よりづか ちょいスポ倶楽部 統括クラブマネージャー	久保田 智氏
	慶應義塾大学大学院教授 キャスター・エコライフジャーナリスト	林 美香子氏
	北広島市長	上野正三



村山氏 皆さん、こんばんは。

さわやかな楽しい
林さんのお話と、今
の矢崎さんのすばら
しいショパンを聞いて、もうこれできょうはいいかなという



気分ではありますが、しかし、これから総合計画についての議論を行いたいと思います。限られた時間ですので、十分意を尽くせないかもしれませんが、その点、御理解ください。

私は、今回、総合計画を作成する上で、市からお願いされまして、審議会が去年の夏から、約30人ぐらい、各分野の方が出ておられます

が、その会長をしております。きょうもここにたくさんの方がいらっしゃっております。10回ほど、三つ部会があったのですが、それを入れますと20～30回になるでしょうか、大変熱心に議論をしてきました。こういう審議会としてはあまりない形で、本当に自由に、活発に議論したといえるかと思えます。

それで、始める前にちょっとだけ、その議論を踏まえて、私なりの総合計画に関する、これからの議論の前置きとしてお話しします。総合計画、10年間と考えた場合、率直に申して頭が痛かったのです。今は10年前と比べても、いわゆる右肩上がりの時代は終わってしまった。少子高齢化というのが本当に日本の隅々まで、我がまちでもそれは進んでいる。何か大きなプロジェクトを誘致するとか、そういうこともなかなか難しい。財政も非常に厳しい。こういう中で何ができるのだ、きれいなビジョンをいくら書いてもあまり意味がないのではないかと。

そういう状況の中で、しかし、そういっていったら総合計画になりません。それで、私どもの審議会の思いとしては、そういう中でも、この北広島は、先ほど前半でお話もありましたが、道内のまちの中では数少ない地の利もありまして、少子高齢化は進んでいるが、まだ成長し続けることができるまちであり、それだけいろいろな宝物がある。そういうことを踏まえて、やはり前向きに計画を考えよう。

ただし、そのときに、もう一つの思いがあります。それは、これからの時代は、行政にこういうことをやってほしい、ああいうことをやってほしいというだけでは不十分ではないだろうか。今回の計画の一つの大きな特徴は、市民と行政と一緒にやるのだという点です。

というか、もっといいますと、市民一人一人が自分で何かそれぞれが行動する、そういうものがあって、初めてまちづくりも生き生きとしていく。これを今回の計画づくりでは基本的な柱に据えました。

そういう点で、先ほど最初のお話で、林さん

が最後にいっていましたが、考えているだけではだめだ、行動することが大事だといっています。私はちょっと頭が痛いのですが、思いとしては、審議会ではそういう議論が本当に活発に行われたと思います。

そういう二つのこと、ある意味では右肩下がり時代の中でも、北広島としては希望を据える、そして子どもとお年寄りが手を携えて希望を持てる、こういうまちにしたい。それと、市民と行政が協力し合って、あるいは市民自身が立ち上がって、いろいろな活動をする中でまちづくりを進めたい。この二つのことが審議会の委員の中でもほぼ共通の思いだったかと思えます。

そういう前提で、きょうもこのまちで実際にユニークな活動をされている市民の方お二人を招きまして、その活動ぶりを聞かせていただいて、さらにそれに林さん、市長にもいろいろお話いただくと、こういう試みになりました。

そういう点で、これからの議論も、皆さんと一緒に何をするのか、我々市民としてこれからどんなまちにしていくのか、そういう思いをここでお互いに一緒に共有できればいいなと願っております。

それでは、早速ですが、こちらから並んでいる順番に、まずお一人ずつ、北広島のまちづくりに関して思うところをいろいろお話しいただきたいと思えます。

それでは、まず稲田さん。

稲田氏 皆様こんばんは。

音楽っていいですね。余韻を壊したくないのですけれども、これからちょっと音楽について語らせていただこうと思えます。

その前に、自己紹介をさせていただきます。

私はFMメイプルパーソナリティ、そして駅



前の蕎麦居酒屋山海亭の女将、稲田保子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

蕎麦屋ですけれども、これは定年を間近にしまして、亭主が手打ちそばの修行をある日突然黙々といたしまして、そして、「おれには夢がある、そば屋を開きたい」、そんなことを申しまして、夢に向かってそば屋を開店いたしました。

そして、私も学生時代からラジオの大ファンで、パーソナリティにとってもあこがれていたのですけれども、とても難しい、林美香子さんのように容姿端麗、頭脳明晰な方であればなかなか夢がかないませんで、ところが、50代になりましてから、北広島のFMメイプルでおしゃべりをさせていただくことになりまして、夫婦二人、夢追い人でございます。

北広島のまちづくりなのですけれども、大きな大きなテーマなのですけれども、ちょっと語らせていただきます。

ここで、お耳を汚すかもしれませんが、ちょっと1曲お聞きください。歌のまち、皆さん、小学校のときに習ったと思うのですけれども、「よい子が住んでるよいまちは 楽しい楽しい歌のまち 花屋はチョキチョキチョッキンな 鍛冶屋はカチカチカッチンな」こういう歌なのですけれども、これが私のまちづくりの大きな大きなテーマ、よい子が住んでいます、そして花屋がチョキチョキ、これは生活の場、皆さんが生き生きと暮らしていらっしゃる、これが私のあこがれなのです。

この歌のまち、このまちにはピアニストの上杉春雄さんをはじめすばらしい人たちが育っております。また、すばらしい聴衆、つまり聞き手の皆さんがたくさんいらっしゃいます。その一つとして、私どもの店、山海亭で、「ほろ酔いコンサート」と名づけて音楽会を催しております。これは既に17回を重ねました。居酒屋でグラスを傾けながら、演奏家の息づかいが聞こえる、まさにそば屋の居酒屋コンサートでございます。これまで、民謡、津軽三味線、そしてシャンソン、フルート、バイオリン、ジャズピ

アノ、ギター、ジャンルはさまざまですが、おかげさまでいつも、20名なのですけれども、満席です。わざわざ札幌まで出かなくても、駅前でゆっくり聞ける、そして、演奏後のプレイヤーとの語り、初対面の人たちのおしゃべり、ぜいたくな時間をありがとうございます、お礼の言葉までいただきます。その皆さんの笑顔に、なんてすてきな人の住むまちなんだろうと思います。音楽のまち、それは演奏者と、温かい聞き手がいて成り立つのです。これは私の店のほろ酔いコンサートのスケッチです。

さて、昨年11月に、この芸術文化ホールで「ハイドン復活記念コンサート」がありました。この会場にいらっしゃる方にもお聞きいただいた方がいらっしゃると思います。実はウィーンに留学している愚息が、帰省のたびに、「お母さん、僕がウィーンにいるうちに、北広島と何かウィーンと交流ができないだろうか」といっておりました。おうおう、でっかいことじゃないのと、母さんは内心思っておりました。

ところが、今年の今ごろです。「バリトンという古楽器のコンサートをしたいただけでも、お父さんとお母さんに手伝ってほしい」と。そのとき私たちは、バリトンも古楽器も何であるのかも理解できませんでした。でも、音楽の勉強を何とか10年もしている息子がぜひ聞いてほしい、いや、聞かせたいというのだからと、手伝うことにしました。

ことを進めるには本当に困難が伴いました。時間だけが過ぎて、8月になってしまいました。普通なら、とうにチケットが販売されている時期です。ウィーンから帰省した息子は頭を抱えました。困り果てて、店にいらした親しいお客様と幼なじみに、窮地に立たされている現状を打ち明けました。ありがたいものです。20代から、そして70代のメンバー10人の実行委員会が急遽結成されました。教育委員会からも最大限のバックアップをいただいて、活動を開始。とはいえ、クラシックです、古楽器です。チケット売りは難しい、暗い情報ばかりがあち

こちらから聞こえてきます。売れないよ、売れないよ、そんな声ばかりなのです。これがS M A Pだとか氷川きよし、そうなりましたら何の苦労もないのでしょうかけれども、バリトンですよ。ハイドンですよ。おいどんかハイドンか知らないけれどもと、ちゃかされる始末でございます。それに、600席もある。どうしよう。あの広い会場に、知っている人だけ、前列だけにポツポツポツ。不安だけが大きくなりました。

ウィーンから3名の演奏家が来るのです。しかも、北広島は日本初演の地です。最初の1枚が売れたときは体が震えました。皆さん御存じでしょうか。バリトンとはチェロに似た楽器です。今から250年前、ヨーロッパで王様たちの間で愛された楽器なのです。ところが、非常に演奏が難しい。また、楽器の値段がえらく高いために、幻の楽器になったのです。改めてCDを聞いてみました。温かい音色と安らかな響き。実行委員のメンバーのSさんはほれ込みました。これはすごいぞ、みんなに聞かせたい。それからはみんながトップセールスマンです。新聞、テレビ、ラジオ、マスコミにも働きかけました。チケットの売れ数が知らされるたびに、仲間の拍手。まさに選挙事務所のように。

当日が来ました。開演前に長い人の列。満席になりました。そして、演奏を終えてからホールから出てきたお客様のやわらいだ笑顔、私は何だか潤んで、ぼやけて見えました。遠く旭川からも来てくれました。札幌からのお客様は、花ホールは初めてだったけれども、こんなに札幌から近いんだねと、その交通の便のよさに驚いていました。また、クラシックのコンサートは苦手なんだと。だけど来てよかったよと、強い握手を求められました。

そして、先日、ウィーンの実行委員長からお手紙が届きました。3名の演奏家たちがヨーロッパの音楽仲間に、北広島市のすばらしさを生き生きと話している。ちょっとした北広島ブームがヨーロッパで起きているのです。

たった10名のボランティアメンバー、しか

も3カ月の短期宣伝。オーストリアと日本の国際交流認定事業をやり遂げました。情熱が無理と思えることを成功に導きました。私の人生にとって感動的な金色の金メダルではありませんが、金色の1ページになりました。これはいける。一人では何もできないけれども、熱い人が10人集まったら、音楽のまちとして全国発信できるのではないかと夢が広がります。すばらしい芸術文化ホールを有効に使えると思います。

さて、歌のまちの2番目の歌詞は「よい子が集まるよいところ 楽しい楽しい歌のまち」という歌詞なのですけれども、まちが元気になる必須の条件に、若い方たちの住むまち。思えばここに移り住んだのは30年前。豊かな自然環境が子どもたちに最高だとの思いでした。3人の子どもがいます。男の子はトムソーヤに、そして女の子はアルプスの少女ハイジとっておりましたが、この豊かな山、川が、女の子もトムソーヤにしてくれました。当時は子どもたちがいっぱいでした。若いまちでした。でも、札幌通勤の方がほとんどです。

今、時代は大きく変わりました。子育てをしながらの職業婦人が多くなりました。札幌市では保育施設が大変不足していると聞いています。そんなことから、保育施設は重要な生活基盤です。かつてこのまちで子どもの教育現場にいらした方、そんな方がこの北広島にはたくさんいらっしゃいます。その方たちの助けを借りて、保育環境の充実を高めて、若い住民をふやす政策をとればと思います。そして、これが生きがいづくりにもつながります。また、3人の子どもを育てた経験から、今、保育士さんとおっしゃいますけれども、若くてきれいな保育士さんもよろしいです。でも、おじいちゃんやおばあちゃんたちの、年齢の違った方が保育にかかわる、これはとても大切なことなのではないかなと思います。

そして、歌のまち、最後ですけれども、「よい子が元気に遊んでる 楽しい楽しい歌のまち」

とありますけれども、公園も、ゴルフ場も、パークゴルフ場も、スポーツ施設も、そしてエルフィンロード、いろいろな施設があります。これに適切なイベントを組み合わせることによって、ほかのまちからお客様がいらして、活気のある、楽しいまちになるのではと思います。

人と人とのつながりが、きっと絵に画いた餅ではなくて、夢に描いたまちになることを私は信じております。どうもありがとうございます。(拍手)

村山氏 音楽を中心にしながら、あるいは若い世代がどんどん住みたくなくなって移ってくるような、そういうまちにしたいなというお話でした。

稲田さんは、最初にお話ありましたように、御主人が定年になって退職されてから、本当に一念発起というのですか、見事に御夫婦でお店をユニークな形で発展させておられます。

それでは、次、久保田さん、お願いいたします。

久保田氏 皆さんこんばんは。

私はよりづか ちょいスポ倶楽部の統括マネージャーをしております久保田智といいます。地名のとおり、四里塚、これは町内会の名前でして、大曲地区の27ある町内会のうちの一つ、四里塚振興町内会の町内会館をクラブハウスとして、和室を借りて、活動拠点としています。

このクラブの立ち上げの発端は、実は私はラグビーをしておりまして、競技人口の減少の一途をたどっているわけです、ラグビーというのは、本当に人口が減っています。この普及にならないかなという気持ちから始まりました。これが2004年のことです。

ちなみに、この中で総合型地域スポーツクラ



ブを御存じの方いらっしゃいますか。聞いたことあるとかいう方いらっしゃいますか。

本当にわずかですよ。実際にこの会場にいらっしゃる方と私も同じでした。総合型地域スポーツクラブに出会ってから、これがどういうものなのかを知ったというのが事実です。

総合型クラブというのは、簡単にいうと多種目多世代といわれます。要するにいろいろな種目があって、いろいろな年代が集うクラブが総合型地域スポーツクラブの定義といわれています。実際にこれはサッカーでいうヨーロッパのクラブスタイルであるとか、私たちのラグビーでいえば南半球、ラグビーのクラブハウス体系、これを文部科学省が日本にも根づかせたいという思いでやった国の政策の一つです。それを私が個人で手を挙げまして、やってみたいと始めたものです。

皆さん、この多世代というもの、あるいは多種目というもの、何かお気づきになりませんか。多種目、多世代、たくさんの方が集う。すなわち、多世代がいるということは、地域なですよ。ですから、私としては、この多世代、多種目を自分が住んでいる地域、私、北広島に住んで12年ですけれども、ちょうど自分ができることは何だろうと思ったときに、総合型地域スポーツクラブを通して自分のできそうなことに気づいたわけです。要するに、私も引越してきて、何だこのまちはと思ったわけですよ。札幌がいいとか、よその地域をうらやんだりとか、北広島の悪口ばかり思っていました、実は。でも、自分ができることって何だろうと思った。総合型クラブに出会った瞬間から北広島を再発見して、実はそれまでこちらの団地にはほとんど来たことないです。大曲の出張所で全部済むわけですから。4キロ行くのであれば、清田区に行った方が近いわけです。でも、改めて自分が総合型地域スポーツクラブをするようになって、総合体育館に来たりとか、役所の方々と会うようになって、北広島というまちを初めて全部知ることになりました。

そういうことができるのが総合型地域スポーツクラブなのだということで、準備期間を含めて3年間を費やして、2008年の2月29日に設立総会をして、総合型地域スポーツクラブ、よりづか ちょいスポ倶楽部がスタートしました。

社会には、文化といわれるもの、きょう耳にした音楽もありますし、もちろんスポーツも文化の一つです。その文化の一つであるスポーツ、総合型クラブは、先ほどいったとおり、多種目、多世代がかかわることができます。私たちのクラブでも、下は4歳、上は74歳までの373名の会員がいます。それがすべて一つの種目ではないですから、いろいろな種目に参加してくれています。

主に大曲小学校を中心とした児童とそのお母さん方、あるいはお父さんもいますけれども、メインが「ラグビー」というスポーツをしています。これはラグビーのタックルを抜いたスポーツですけれども、これには、2月は週3回やっていたけれども、1回40名以上の参加者です。それが週3回となると、本当に時間帯、放課後の時間を貸していただいている小学校に本当に感謝しております。

それから、大人を中心にしたものには、「スポレック」というテニス系のミニスポーツがあります。実はこれ、体育館ですると、テニスというのは1面使ってしまうので、意外と楽しめないのです。そこで、新潟県でつくったスポレックというものを入れたところ、非常にニーズがありまして、火曜と木曜、きょうも1時からやってきました、ファミリー体育館で。きょうは11名の参加でしたけれども、10代から70代まで参加者がいます。

それから、先ほどいった、うちは会館の和室がクラブハウスですので、会館でできるものは何かというと、ヨガなのですけれども、ヨガは毎回12名ほど、マットを12枚敷くといっぱいいっぱいの大広間しかないのです。そこでヨガだけではつまらないので、その前にアロマセラ

ピーも企画しました。毎週木曜日は癒しの日と勝手にこっちでうたって、アロマセラピーのにおいをかぎながら、夜の7時からヨガをするというようなことも企画しました。

あとは、地域といいますか、千歳の青葉公園へ行ったりするウォーキングをしたりとか、あるいは、うちはニュースポーツを普通にスポーツにしようと、ユニホック、ペタンク、ドッジビー、そういうようなスポーツを、バドミントンとバスケットもそれに入れていますが、毎週水曜日にちょいスポ活動として、中学校の体育館、これは学校開放事業を使ったもので、結構中学校の体育館は広いので、それを4分割であるとか3分割、とにかく時間帯で分けながら、いろいろなスポーツをしています。

実はこれには、去年4月から、先週の3月3日までに利用者が1,850人、年間通して2,000名を超えるクラブ運営をしております。実際に施設を持たないクラブでもこれだけのことができます。当然、クラブマネジメントというのは必要になりますけれども、それだけではなくて、やはり地域の方の協力があったりとか、会員一人一人の意識の高さというものがスポーツに対する意識も高めていくであろうし、実はこのことも私たち総合型クラブの役割になります。地域スポーツというのではなくて、実際に月に1回はそば打ちもやっています。昨年のは、昼のヨガにあわせて、ヨガの最中、私たちがそばを打っておいて、ランチつきヨガセットをやりました。当然、そばの代金もいただいているのですけれども、それも非常に好評で、ヨガの後はそばを食べて、コーヒーを飲んでいたら、いつの間にか夕方になってしまったという、子どもたちが帰ってきて困ったという話もありましたけれども、そういうような企画をしながら、クラブライフを楽しんでいます。

実は昨年のは、うちは漬け物も漬けました。この玄米漬けが大変大好評で、その前のニシン漬けはあつという間にさばけたのですけれども、玄米漬けもまだ何本が残ってしまっ

それを食べながらお茶を飲んで話をするというような、要するにクラブハウスというのは人が集う場所、会館というのはそういうものではないかと、総合型クラブを仕掛けたときに、そういう環境があればなというものも考えたものですから、漬け物を食べながら、そばを食べながら、お茶を飲みながら、コーヒーを飲みながら会員が集うという、四里塚会館を使わせてもらって、非常にメリットがある活動だと思っております。

多世代が共通理念に向かって活動することが実は一番大事な部分でして、近所づき合いが希薄だとか、町内会の役員の問題、それからPTAの役員のなり手が無いといったことは、本当に今、非常に大きい問題です。決まった人への負荷の低減の部分も含めて、私自身もPTA会長を実は6年やっています、町内会の役員もやらされているのですけれども、なぜ引き受けたかという、やはり一人ではないのです。総合型クラブをすることによって、非常に手伝ってくれる人が多いです。実はPTAの役員のほとんどもクラブの会員の方々に、それも地域は、私は大曲柏葉に住んでいますけれども、末広、南ヶ丘、大曲の大体全域といたしますが、フローラル柏葉台町内会がいたりとか、なるべく重ならないような状態で役員の方も選出できています。

それから、町内会の活動についても、実は町内会の役員だけでは何もできません、四里塚振興町内会は、焼き肉のときには、中学生に手伝ってもらって子どものイベントを考えたりとか、ラジオ体操も、うちの町内会は子ども会がなくなりました。運営者がいないからです。それをすべて総合型クラブで請け負って、朝、ラジオ体操も10日間、町内会でないうちのスタッフが来て、朝、ラジオ体操をしていただいたりとか、そういうふうな活動も現実に行っております。

実際に何かを変える上で、必ず私はよくいわれました。前例のないことは認められないと。ただ、今までどおりのことをやって何が変わっ

たのかといたら、変わらなかったのですよね。自分自身は総合型クラブを通して前例のないことをやってみて、少なからず何か、だれかが動くだろうと。一人ではないという部分で、今始めていますけれども、理念があって、それに向かう一つの意識、これがクラブステイタスといわれるものです。

ちなみに、よりづか ちょいスポーツ倶楽部の理念は簡単なものです。

一つは、子どもたちが健やかに育つ環境。

二つ目が、地域住民が健康であり続ける環境。

三つ目、住民一人一人の顔が見える環境。

この三つの実現に向けて、会員の方々、それから多くの地域の方の協力を得ながら、ビジョンを進行中です。決して無理なくやっているつもりですし、本当の協力者がふえています。こういうことが、ある意味、北広島市にも当然ビジョン、ミッションがあるわけですから、私たちがやっていることが北広島に少しでも貢献できたらと思っています。

以上です。(拍手)

村山氏 お一人で大曲に来られて、お一人でこのクラブをつくって、素晴らしい広がりを見せているようですね。年間2,000人ぐらいの方、子どもからお年寄りまで、単なるスポーツクラブではないですね。今お話を聞いていると、それから、人と人がつながっていくことを非常に大事にされているようです。

さて、今回、たまたまお二人のお話をまず伺いましたが、こういうように、まちの中でいろいろな形でユニークにそれぞれ活動されている方、たくさんいらっしゃると思います。そういうものがまちづくりのベースになるのだと改めて感じました。

さて、それでは次に、林さんからまた自由にまちづくりに対する思いなどを語っていただければと思います。

林氏 今、お二人から素晴らしい活動の様子

が紹介されて、すごいなと本当に思いました。

例えば久保田さんの活動、ぜひこれは全道に情報発信してほしい。こんなすごい総合型スポーツクラブがあったのだと、ちょっとびっくりしました。札幌などでも町内会を中心にさまざまな活動が行われているのですが、なかなかここまでいかないですね。これを各地区に広げていったらすごいなと思いました。



あと、稲田さんのお話の中で、交通の便もいいところにこの花ホールがあるというお話あったのですが、その第1回が大成功していらっしゃるので、多分この後もその10人は常に集まって、次のコンサートとなると思うのです。北海道でいうと、札幌はホールが少ないのです。本当は札幌でやりたいのだけれども、ホールが見つからなくて、江別で開いたり、小樽で開いたりという例が本当にあるので、そういう意味では、花ホールでもどんどんコンサートを開くと、また札幌からたくさんの方が来てくださるのではないかなと、お話を聞いていて思いました。

あと、札幌圏内でも今話題になっているのが、北広島に4月にオープンするアウトレットモールなのです。若い世代はすごく楽しみにしています。

それから、先ほどもちょっとお話ししましたが、7月にオープンするホクレンの複合拠点施設、これもやはり目玉になると思うのです。食育だったり、農家レストラン、体験というのは、やはり都会の人はすごく楽しみにしています。

この二つの施設ができることは、ぜひ北広島の皆さんももっともっと情報発信をして、その2カ所に来た人をずっと北広島のまちにも来てもらえるようないろいろな工夫をなさるといいのではないかなと思います。

そのときに、北広島以外の者からの願いとし

ては、例えばおいしい喫茶店があるとか、おいしいおそば屋さんとか、行ってみたいお店が一つでも二つでもあると、お客さんは足を伸ばすのではないかなと思うのです。

今、例えば全道各地においしいパン屋さんがあるのですけれども、わざわざドライブで行って買ったり、ネットで買ったり、かなり山奥にもおいしいパン屋さんがある時代なのです。そしてまた、経営が成り立つ時代なのです。おととい、私は黒松内に行っていたのですが、黒松内においしい和菓子屋さんできたのです。鎌倉から移住してきた方がつくっているそうなのですが、廃屋だったところを直してつくっているのですが、ものすごく町民の方たちが買いに行っていました。

都会の方で、そういう技術を持っている人が、都会だとやはり土地代が高いとか、いろいろな事情でオープンできないけれども、でもどこかで独立したいと思っている方、たくさんいると思うのです。そういう方たちにぜひ北広島で開業してもらえるといいのではないかなと思います。もちろん本人の努力だけで起業する場合もあると思うのですが、地域によっては、そういった技術者を招いてというのでしょうか、空き店舗で開いてもらうような工夫をしているまちも出てきていますので、ぜひそういうおいしいお店がふえるといいなと思います。

あともう一つが、オープンガーデンという、隣のまちの恵庭の恵み野が有名ですが、この北広島にもすごくすばらしいオープンガーデンをなさっている方が何軒かいるのです。白石さんとか、本当にすばらしいお庭をお持ちの方がいるので、もっとそのあたり、多くの人に知らしてもらえると、例えばおいしいコーヒーを飲んで、コンサートを聞いて、お花を見てという、札幌から列車で15分のところで癒しを感じられるまちになるのではないかなと思います。

まだ北広島という、住宅街として札幌では知られていて、なかなかそういう遊びの部分は知られていないところがあると思うので、ぜひ

そのあたり、上手に情報発信してほしいなと思います。

村山氏 今お話にありました、7月オープンの予定の施設、大曲ですかね、場所は。ホクレンがやる農業体験などの施設というのは非常に楽しみです。

それから、先ほどの久保田さんの話にありましたが、スポーツといっても、食とも関係している、健康に関係する、それから、そういうことを通してまた多世代のつながりというもの、みんなつながっていく。そういうつながりが、これからのまちづくりでは非常に大事なことなのです。一つ一つの活動は小さくても、それがつながっていくことで、また情報発信することで広がっていくという、こういうことをやはりいつもベースに置いておかなければならないなと改めて思いました。

それでは、上野市長さん、一つ総合計画にかける思いなどありましたらお願いします。

上野市長 おばんでございます。

きょうは夜分お疲れのところ、本当にありがとうございます。こんなにたくさん来ていただきまして、本当にこれからのまちづくり、心強く感じています。

北広島市は、先ほど課長が申しあげましたように、昭和45年が長期総合計画のスタートであります。10年間を4回やりまして、平成22年度が第4回目の最終年度で、今回の総合計画は第5次の総合計画でありまして、今回、原案をつくっていただきました村山会長はじめ30名の審議会の委員の皆さんに心からまず感謝を申し上げたいと思います。

そこで、今までの第4回目までの総合計画につきましても、どちらかというと人口の増加、



公共施設の建設だとか、右肩上がりの計画でありました。しかし、人口問題研究所の推計を見ますと、2030年には、2005年と比較しますと、北海道で約95万人くらい人口が減るという予測が立てられております。

しかし、北広島市は、若干ではありますけれども、まだ人口が伸びる、そんな予測にはなっておりますけれども、今までのような右肩上がりの計画は非常に難しいのではないかなと私は感じております。しかし、まちづくりの計画、目標でありますので、このまちが少しでも豊かになるという、そんな計画、夢の持てる計画は必要だと思っております。

そういう中で、今、北広島の置かれている現状につきましては、日本全体がそうなのですが、大変厳しい経済情勢、地方も国も大変財政的に厳しい状況にありますけれども、今、いろいろなお話がありましたように、大曲では、4月の22日に120店舗が入る大きな商業施設がオープンを予定しております。また、7月には、大曲の夢プラザの手前でありまして、ホクレンが持っております土地、全体で約18ヘクタールくらいあります。ここにグリーンツーリズムの関係で、都市と農村の交流で、農業の振興も一つあるのですが、農家の皆さんがつくった直売所だとか、それから地元でとれた農産物を使ったレストラン、それから、子どもたちだとか若いお母さん方の食育をするような研修施設だとか、農業の体験をできるような、そんな施設ができる予定です。7月から一部活用がされるので、そういうことを考えますと、今、全道で大変厳しい中であって、北広島市は明るい材料があるのではないかなと思っております。

そういう中で、この北広島のまちをどう活性化をさせたらいいのか、三つあるのではないかなと思っております。

一つは、やはり地理的条件、北広島市は道都札幌に隣接しまして、JRで16分、空港まで20分というところ。それから、大曲は国道3

6号だとか高速道路だとか、こちらへ来ますと274号などが通っております。大変な交通の要衝地域であります。そういうことから、市が大曲につくった工業団地には、流通関係と申しますか、北海道新聞だとか朝日新聞、毎日、読売という、国内、道内、主要な新聞社の印刷工場が立地されております。全国的な工業団地を見ましても、このぐらい新聞社の印刷工場がかたまっているところは実はないという、そういうことから見ましても、立地的にすばらしい条件でありまして、市のつくった工業団地も実は完売になっていきます。今、企業の進出のことでいきますと、大曲に土地はないですかというお話もありまして、やはりこれから若い方が勤める雇用の場の確保だとか、これからやはり自主財源を確保しなければならないので、一つ計画をしているところであります。

また、これから人はそうはふえないのではないかなということで、交流人口をふやす、そういう手立てが必要ではないかなと思っております。これから3月に、全国の中学生の空手道大会があります。3日間ありますけれども、全国から子どもたちが1,000人、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん含めると、3日間で1万人ぐらい、総合体育館に集まってきました、こういうことが地元の活性化に結構つながっていくのではないかなと思っております。

また、エルフィンロードを活用したマラソン大会も、最初は300人ぐらいの参加だったのですけれども、昨年は1,500人を超えており、これはやはり環境がいいから参加、全国から来ていただいております、そういう意味で、交流人口をふやすために、そういうさまざまなイベントを組むことが必要ではないかと思っております。

また、住環境につきましても、ほぼ中心部に特別天然記念物の野幌原始林やレクの森といわれている約40ヘクタールの森がありますけれども、そこに隣接するように森が分散をしてい

るまちでありまして、非常に環境がいいという評判をいただいております。しかし、まだ住宅を建てられる土地が約100ヘクタール以上あるものですから、そういう意味で、交流人口をふやしながら、やはり定住をしてもらうことで、今までは市が直接PRするというのはなかなか下手なものだったものですから、これから少しまちのセールス、シティセールス、まちの魅力を発信していきたいと考えております。

また、最後にもう一つは、やはり先ほど林先生がいわれましたように、うちはやはり行動する市民が多いことがすごい財産だと私は思っております。今、稲田さんとか久保田さんがいわれましたように、スポーツ、文化の活動、さらには、花づくりだとか、環境だとか、教育だとか、福祉だとか、市内でさまざまな自主的な活動をしている多くの市民の皆さんがいます。

先ほど会長ともお話をしましたけれども、今、退職をされて、自由になれる方がたくさん出てきております。実は今、団塊の世代ですから、60歳を基本にしますと、大体毎年1,000人ぐらいの方々が60歳になっていきます。今までは700~800人だったのですけれども、そんな時代でありますので、その皆さんの今までの培われた経験だとか専門性だとか技術を、いかにまちづくりに参加していただくか、そんな参加していただく仕組みづくりを進めていながら、私は市民の皆さんとともにまちをつくることを基本にしておりますので、皆さんとともに、この10年間の長期総合計画、少し活力のある、魅力のあるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

村山氏 ありがとうございます。

ひとあたりお話いただきましたが、せっかいですから、少し焦点を絞りまして、それぞれいろいろな大変いいお話を聞くことができたのですが、皆さん、改めて緑色のパンフレットの最後を見ていただきたいのですが、今回の案では、重点プロジェクトを三つ立てております。

私どものまちは、今、市長さんのお話にもありましたように、いろいろな可能性があります。住みやすいまちである、環境がいい、それから交通の利便性もいい。しかし、少子高齢化は着々と進んでいて、黙っているとしぼんでいきます。

今回、私どもの審議会では、少子高齢化に負けないまちづくりをするぞということを考えました。そういう中で、端的にいうと、可能性はいろいろある、十分あるけれども、それを現実にするにはいろいろな手立てが必要だと。

具体的にいいますと、交流人口と同時に、やはり定住人口をふやさなければならない。高齢化だけではだめだ、お年寄りの経験を生かしながら、若い世代がもっと住みたくなるまちにしなければならない。これが第1番目です。そのためには、保育所が十分であるとか、医療の問題、産科ができないかなとか、そんな議論をいたしました。そういう、まず1番目、子育て支援。子育てが本当に安心してでき、若い世代がいろいろなところから、このまちで子どもを育てたいと思えるようなまちにしたいというのが一つ。そのために、教育も非常に充実していることが必要でしょう。

それから、ただ子育てだけではなくて、やはり若い世代が来るためには、まちのにぎわいが必要です。これはどうしたらいいか。今もいろいろ市長からお話ありました。サイクリングロードを活かすとか、いろいろなアイデアがある。にぎわい、これをどうつくっていくか。これもなかなか難しい課題ですが、これはセットで大事だと。

トータルに言って、3番目の、住みたくなるまちにしたいという課題がある。この三つは1セットで、これから10年、行政も市民も一緒にこのまちをつくっていく上での基本的な方向として常に追求していきたいので、このプロジェクト三つが提起されております。

そういう点で、いうのは易しいのですが、実際に、例えば2番目、にぎわいをどうするか。

若い世代が来たくようなまちにするにはどうしたらいいか、その手立てが必要。つまり、いろいろ可能性はありますが、それに対してどんな手立てをすると、それが実際のものになるかということころは、いろいろ工夫しなければならない。

そういう点で、特に若い世代の方々にどんどん来ていただくため、あるいはどういう手立て、あるいは付加価値、そういうものをこれからのこのまちのまちづくりで考えていったらいいかについて、お一人ずつ、自分の思いを語っていただきたいと思います。可能性を現実のものにするために、例えばイベントだったら、イベントをこういうふうに考えたらいいか、お一人ずつ、どうぞ。

また順番にいきましょうか。

稲田氏 私はエルフィンロードにとっても魅力を感じておりまして、あそこは本当に親子で楽しめる場所だと思っております。ちょっと略歴にも書きましたけれども、「きたひろしま大志さくら会」と名づけまして、北広島に桜の木を植えようということを市民ボランティアで活動しております。北広島ではお花見をする場所というのが、あまりないのです。ここに古くから住んでいらっしゃる方に聞きましたところ、北広島というのは、団地ができる前貧しいところで、花見をする余裕などなかったのです。桜の木が育つにはとても年月が要ります。そういうことで、桜の木を植えようという運動にかかわらせていただいておりますけれども、木をたくさん植えて、そして親子でお花見をしたり、エルフィンロードを親子で自転車で遊んだり、そういう活動を続けるのは、ほかの市町村に誇れるすてきなことだと思います。

村山氏 いろいろなイベントを多様にやっていく必要があるのでしょうか。審議会の中では、フットパスなども、丘陵地帯ですから、非常にいいなという意見も出ておりました。

それでは久保田さん。

久保田氏 私は総合型クラブを通しての活動が中心ですので、実は先ほどいったスポレックという活動で、新潟県糸魚川発祥で、昨年、糸魚川から5名の指導者のもとでスタートしています。今年度は6月に「北海道&新潟県交流スポーツ大会」を、体育館を予約して、新潟県から10名から20名、村上市と糸魚川から来るので、これをするによって、ホテルに泊ってもらったり、旅行パックを考えたりとか、実は来年度、1月10日に、全道のタグラグビー大会も決まっております。総合型クラブ、うちのクラブが北広島市にあるので、そこから発信しながら、人の集まるイベントというものは確実に年々ふやしています。

それから、地域のことを考えますと、実は中学校を卒業すると高校はばらばらになりますね、同じ高校に行くわけではないので。ところが、大曲地区の子どもたちは毎週水曜日に集まれるんだよねとって中学校を卒業していきました。今の高校1年生が中1から始めた活動ですので、毎週水曜日、おばちゃんたちとバドミントンしたいのだとって、16、17歳の高校生が遊びに来ます。そういうのも含めて、地域の子もたちが帰ってくる場所、毎週水曜日、中学校の体育館に来たら、おばちゃんたちもいるけれども、自分たちも一緒に友達にも会えるんだなという、そういう環境が間違いなくできていると思っております。

村山氏 林さん、にぎわいとか魅力をどうつくるかについて、何かアドバイスありませんか。

ホクレンの施設ができますが、先ほどの打ち合わせのときも話が出たのですが、結構ここからは遠いですから、札幌からいろいろなお客さんが来ても、そこで終わって、いいところですねとって帰ってしまう。まちにとっては何なのだろうと。アウトレットモールもそうです。そういう点で、やはり何かいろいろな可能性が

あっても、それを本物にするには、素材に付加価値をつけることが必要なのだと思うのです。

このことについて、何かアドバイスがありましたらお願いします。

林氏 アウトレットモールにしてもホクレンの施設についても、やはりどういうふうと一緒にやっていくか、コラボレーションできるかというのは、商業施設なだけに、お金の問題とかいろいろあるのかもしれませんが、たくさん人が集まる場所になるわけですから、そこで北広島がこんなにすばらしいところなのだと上手にPRする場所になってほしいなと思いますね。

例えば、久保田さんがそこに行っているいろいろなスポーツを見せるというのはどうでしょうか。今聞いたスポーツを札幌市民がみんなわかるかという、何だろうそれはという人が多いと思うのです。実際にそこで例えば子どもたちがそういうスポーツをやっていたりすると、このまちはすごいなと思うでしょう。

きょう、本当にたくさん来てくださっていてうれしいのですが、ちょっと若い人が少ないかなというのは、残念です。ちょっと難しく思うってしまうからかもしれないのですが、こういう10年のことを考えたすばらしいまちづくりをどう若い人に伝えるために、いろいろな世代向けにこうしたイベントもしなくてはいけないのかなと思うのです。もちろん若い世代の方も何人が来てくださっていて、すごくうれしいのですが、そういう若い世代にどうアピールするのかというのも重要なのかなと思います。

例えば子育て中の若いお母さんたちだと、思っているけれども、なかなかこういう場には出てこれないこともありますよね。例えばメールだと難しいとか、いろいろなこともあるようなのですが、札幌で前に緑の計画を立てたときの事例です。一般公募の委員の人って、やはり会議に出られる方は限られていますよね。それで、

在宅で委員ができるように、その時はファックスをうまく利用したことがあったのです。なので、ここには来れないけれども、いろいろなことを思っているという、まさにパブリックコメントで集めるという方法ではあるのですが、もう少しこちらから近づいて行って、語ってもらえるような場の設定というようなことも必要なのかなと思いました。

あと、きょうもJRを利用して来ましたが、きょうはパンを売っていたのですが、あそこは直売所の支店にできないのかなと思いました。今、全国的にも「駅ナカ」と呼ばれるショップがすごい人気ですが、駅ナカの直売所で成功している地域もあるのです。あそこは相当な交通量もあるでしょうから、何かあそこをうまく使えないのかなとも思いました。

あと、先日、石狩に行ったときに、石狩も団地の高齢化がすごく進んでいるので、農協がやっている直売所に行けない地域も多いらしいのです。それで、移動型の直売のシステムを今考えているようで、それを市から一般公募型で、どういう形でやるかを今公募しているそうです。これからの高齢化にふさわしい直売所のあり方を考える時期かもしれません。みんなが車で行けるわけではないですから。直売所でも配達してほしいという声も随分あるそうなので、何かこれはまた次の商売、それこそ新しいコミュニティビジネスにもなるのではないかなと思いました。

村山氏 今のお話、何も農業者、農家の方々だけではなくて、このまちに専業農家は今100戸に満たないくらいしかいないのですけれども、いろいろな方が家庭菜園ですとか貸し農園で一生懸命汗かいて、楽しみながらやっている。そういう産物を移動の形で市内の各地で、各場所で売っていくというのは、本当にこれはいい活動になりますね。

それから、ホクレンの話ですが、もう一つ、食の教育という点では、学校側も、恐らく学校

教育の中でも活用を大いにできるのではないかなと思うのですが、その辺も含めて、市長、何かお考えがあれば。

上野市長 先ほどのホクレンの関係だけではないのですけれども、当然、そこで子どもたちが食の教育をできるような、そういう施設もあるのでありまして、また、実はいろいろな試験のための田んぼだとか畑だとかもつくっていただけのわけですが、北広島市は寒地稲作発祥の地であります。140年前でございまして、その当時の「赤毛」という品種の米が、今、市内でもずっと引き継いでつくられております。そこで、ホクレンさんの田んぼの中に、実は赤毛種を栽培して、近くの小学生にも田植えから刈り取りまでやっていただいて、そして最後は食べるのであります。

参考までに、赤毛は、炊いたばかりであればほとんど今のお米と変わらないぐらい、本当においしい米です。ただ、冷めるとやはり味が落ちますけれども、そんな状況であります。

にぎわいと申しましたけれども、札幌の観光の入込数というのはたしか1,300万人だと思えます。北広島は大体75万人ぐらいです。そのうちの半分、35万人は、実はゴルフ場であります。それで、やはり今までは通りすがりのまちといわれてはおりまして、やはりPRが、知ってもらうことも非常に重要で、今、札幌広域観光圏といまして、札幌だとか管内の市町村が一緒になりまして、お互いに情報を交換して交流人口をふやそうというようなこともしております。

そういう中で、実はホテルで学会があったときに、海外の大学の先生が、レクの森に行きたいと。朝起きて、自転車でいきたいということで、自転車で乗ってレクの森の中を走れますから、そこでこの森はすばらしいという評価をいただいております。我々は原始林かというふうな、そんな気にしかならないわけですが、あれは開拓当時から先人が残して

いただいた森でありますので、やはりもう少しこの森に入りやすいように、自転車道路から散策路をつくるなど考えておりました、これから交流人口をふやしていきたいと思っております。

村山氏 魅力をどんどん発信していく。そのためには、具体的にはいろいろな、今、市長のお話のような手立てをして、それからイベントを工夫したり、そういうことで交流人口をふやす。それから、若い世代がどんどん住んでくれるように、そのためには、北広島で子育てをすると教育環境もすばらしいよと、単に住環境がいいというだけではなくて、ブランドになる。つまり札幌近辺の人たちにとっては、北広島で子どもを育てるといのはベストの環境ですよと広く伝わっていくというぐらいのことをこれからいろいろ考えなければならない。

さて、ここで、もう時間がだいぶ経ちましたが、せっかくでありますから、会場の方から、2、3人に限って、御発言を願いたいと思いません。申しわけありませんが、時間の関係上、お一人2分程度でお願いしたいと思っておりますが、御発言したい方、手を挙げてください。まちづくりについて、今のお話を聞きながら、自分としてはこんなことが大事ではないかというような御発言があったらよろしいかと思っておりますが、どうぞ。

<会場との質疑応答>

会場 大曲に住んでおります。

住みたくなる地域づくりはもちろんわかるのですけれども、それには、我々、老齢化していますけれども、今住んでいる我々が快適で健康な地域住民として生活しているかということがあると思うのです。

このプロジェクトに欠けている視点は、具体性にちょっと欠けるかなと。あるいは、緑というだけではなくて、それには森を育てるといふ観点も必要でしょうし、環境では、景観も必要だと思っております。緑の景観、住みよい景観。

それを含めて、あとは除雪の問題で、雪を克服するという、そういう観点ももう少し取り入れてほしいと思いますし、何よりも欠けているのは、地域の生活に一番密接に関係している町内会、先ほど話が出ていましたけれども、町内会という視点が欠けているのがちょっと不安です。

というのは、一人一人、これからの市民同士のつながりを挙げていますけれども、基本となるのは、我々日常生活をして、一番つながりがあるのは、行政よりも町内会なのですよ。この町内会が、先ほど出ていましたけれども、随分劣化しています。会長のなり手がいない。それから、そもそも立つ位置がはっきりしていない。町内会が、みんながどうとらえてどういふものであるか、そういうことの指導監督にももう少し留意してほしいと思います。

村山氏 わかりました。町内会の問題なり、それから、最近行われているコミュニティサロンのようなものについては審議会でも何回か議論がありました。やはり町内会の環境は大事だと、答申案の本編にはきちんと書いてありますので、後ほどまた御確認いただきたいと思いません。

そのほか御発言ございますか。先に手が挙げた方、どうぞ。2分程度で、恐縮ですが、お願いいたします。

会場 富ヶ丘に住んでおります。

きょう、そうそうたるメンバーがパネリストを務められて、村山先生がコーディネーターをされるという、こういう席にお招きいただいて非常に光栄に思っております。

まちづくりというテーマで議論されてこれたわけですけれども、まちづくりにおいて、仮にネック、ウィークポイントになるものがあるとしたら、それは果たしてどのようなものであるか、今まで発言されてきた市長も含め、林先生も含め、ちょっとパネリストの方にお伺いで

できればなと思っております。

村山氏 時間の関係上、参加者の皆さんとパネリストの間の一問一答的なことはちょっと勘弁していただきたいのですが、最後にパネリストに一言ずつ話していただきますから、そのときにまた触れていただきたいと思います。まちづくりにとって特に障害になるものは何ぞやということですね。

もう一人だけ、これで終わりたいと思いますが、時間の都合で、2分をお願いします。

会場 大変いいことを聞かせてもらっているのですけれども、もう少し後ろまで聞こえているかということ意識しながらやってもらいたい。みんな同じではないから。やはり年配の人も来ているから、オクターブ上げていわなかったら聞こえづらいのです。そういう心配りがない。

それから、きれいにいおう、いおうと思って、最初のアナウンサーから、私、指摘しようと思ったのだけれども、「あいうえお」をはっきりいえばいいのです。あいうえおをはっきりいって発音をはっきりしてもらわないと聞き取りづらいのです。

村山氏 わかりました。それは運営の問題です。

それでは、後ろの方、どうですか。聞こえづらいですか。大丈夫ですね。OKだそうです。大丈夫そうです。

それでは、もうちょっと会場の方からも御意見いただきたいところですが、だいぶ時間も経って来ましたので、いろいろな御議論を受けて、パネリストの方のいろいろな御発言を受けて、いよいよ最後、一言ずつ、こんなことをこのまちでこれから追求したい、追求した方がいいということを、先ほど出た幾つかのものについてもうちょっと触れて、例えば子育ての問題、教育の問題、交流、イベントの問題、いろいろな

直売所など、あるいは食育の問題とか、スポーツの問題、多世代交流の問題、そしてまたにぎわいをどうつくるか、こういう点で、改めてお一人ずつ、抱負を含めてお話しいただきたいと思います。

稲田氏 商売を始めまして、実に多くの人に出会って、助けられまして、そしてやっと北広島の市民になったのだという感じを受けております。

一番先に御紹介しましたけれども、よい子が住んでいるよいまちはということで、「花屋はチヨキチヨキチヨッキンな、鍛冶屋はカチカチカッチンな」これは商業が、働く人が生き生きと働いている姿です。

これは長期計画ですけれども、現実に今、北広島市の駅前、飲食店、そして小売業、本当に大変な現実があります。北広島を愛する皆さん、きょう、お帰りにちょっと一杯飲んでいこうか、ちょっと御飯を食べていこうか、そういう気持ちで北広島を育てていただければありがたいと思います。

村山氏 それでは久保田さん、どうぞ。

久保田氏 私にとってピンチといいますが、ウィークポイントというのはチャンスだなと思っています。そこから思い浮かぶことはたくさんあって、それを無理とかだめと思ってしまったらそこで終わりなのですけれども、そこから芽生えてくるチャンスはたくさんあって、それが私にとっての人づき合いだと思います。厳しいことをいわれることを叱咤激励と受けとめながら、それをチャンスに変えてやっていくことが楽しみに変わって、たくさんの笑顔が生まれると思います。私自身はその信念で、今後も北広島市、私の子どもたちもふるさとになると思いますし、たくさん子どもたちのふるさと、それから、私が行く道、諸先輩方に追いついて、年は追いつかないですけれども、皆さんがやっ

てくれたことをもっといいまちにするために頑張ってつなげていきたいと思っています。

ありがとうございました。

村山氏 頼もしいお話ですね。

それでは、改めてまた林さん、アドバイスなど。

林氏 先ほどの御質問で、まちづくりの障害というものは、いろいろな場面があると思います。私は連携の大切さという話をしたのですが、ときとして、例えば農業者と商工会が対立をしたりなどという場面もあるのです。本当は地域のことを思っているはずなのに、うまくいかないというのは、もう少し地域全体を見る目が必要なのではないかなと思うことはよくあります。

あと、きょう、若い人が少ないというお話もしたのですが、ぜひ女性の皆さんにももっともっと参加してほしいなと思います。男性の視点と、やはり女性の視点、両方があわさって毎日の暮らしというのは豊かになっていくのではないかなと思います。

あと、行動する大切さを先ほどお話ししましたが、これはそれぞれのお立場でいろいろ違うと思うのですが、九州の湯布院というまちが地域づくりをすごく頑張っていますよね。湯布院に行って、いろいろなまちづくりを見て感激をしたのですが、その中で一番感激したのが、幼稚園児もまちづくりに参加していることです。それは何をしているかということ、幼稚園児が火の用心のパトロールをするのです。そうすると、子どもが歩くことは、まちの人がすごく心が和むし、子どもの目で見ると、まちの危ないところが見えたりもする。子どもたちが歩くと、またまちにみんなが見に出かけるようになり、小さな子どもができるまちづくりもあるのだなと思いました。

北海道でも、例えば釧路と合併しましたが、阿寒町は、小学生の子どもが地域の観光のマッ

プをつくって配ったりもしているのです。子どもたちもできるまちづくりもたくさんあるので、ぜひ、先ほど多種目、多世代というスポーツクラブのお話があったのですが、まちづくりはまさに多種目、多世代で頑張してほしいなと思いました。地域の人がこんなにたくさん集まって一生懸命考えていくのはすばらしいことだなと改めて思いました。

きょうはありがとうございました。

村山氏 それでは、市長、よろしくどうぞ。

上野市長 私は子育ての関係につきまして、やはりこれからは子育てが重要なことの一つでありまして、今、保育所は待機児童もおります。やはりこういうことを解消するための対策を立てています。また、小学生の子どもたちが放課後、家に帰っても一人だとか、そういう対策の学童クラブにつきましても、これはやはり児童が多くて、施設も狭隘になっておりますので、そういう部分で、子どもたちのための施設をつくるようにしなければならないと考えております。

また、今は若いお母さん方が子育てに対して大変悩みを持っております。そういうことで、この5月からは常設の子育て支援センターをつくりまして、そこへ行きますと、同じような世代の皆さんが集まって、指導者が悩みを聞いたり指導したり、そんな施設もつくってまいりたいと考えております。

それから、先ほどのネックになるものというお話がありましたけれども、今、北広島市には6万800人の市民の皆さんがおります。それぞれその考え方が6万800通りあるのではないかなと思っています。それをいかにまとめるかが、これから非常に重要になってくるのではないかなと思っていますところでもあります。

以上です。

村山氏 どうもありがとうございました。

大体時間がまいりました。本当に短い時間でしたが、それぞれユニークなお話をさせていただけたかなと思います。

最初にもいいましたように、このまちは北海道の中では本当にわずかな、まだ努力によって、頑張れば地道に成長できるまちです。可能性の十分あるまちです。

私は、過疎で苦しんでいる道内のまちの人に対して、こういう可能性があるのに市民が頑張らなければ本当に申しわけが立たないくらいに思っております。そういう意味で、北海道の模範にならなければならないと思います。

その上で、交流人口と定住人口、両方に視点を据えて考えていきたい、いかなければならない。

交流人口のためには魅力づくり、イベント、それから情報発信というようなことがきょういろいろ語られました。ただ施設ができた、よかったよかっただったら、絶対それはまちづくりには効果が上がりません。そういう点では、交流人口の面でもいろいろ工夫して、イベントを市民自身も加わってつくっていかなければならないと思います。

それからもう一つ、やはり定住人口をふやさなければならない。高齢化、少子化に負けてはならない。このまちは出生率が、北海道も全国で低い方ですが、さらに低いのです。若い世代に引っ越してもらいたい、空き家はいっぱいできてきていますから、少しいろいろな工夫をして入ってもらおう。それから、出生率を上げてもらいましょう。若い世代、きょうあまり来ていないですけども。

そういう点で、北海道でよくいわれますが、素材はいいけれども、どうもそれが製品になっていない。住環境、自然環境という素材はすばらしい。だけどそれに対して付加価値ができていない。その付加価値の一つが、例えば子育ての環境であり、すばらしい教育が行われているということです。それから、まちににぎわいがある。結構おいしいものが食べられる。健康づ

くり非常に皆さん一生懸命。こういう付加価値を、素材に対してちゃんとつけて世に出してやる、そういう努力がこれから本当に必要なのではないかなと改めて思います。

ケネディが大統領に就任したとき国民に呼びかけた有名な話がありますね。国が皆さんに何をしてくれるかではなくて、皆さんが、国民一人一人が国に対して何ができるか、こう考えて国づくりをしましょうとケネディが呼びかけたのです。

まさにそうだと思います。これからのまちづくりは、ひょいと大プロジェクトでいい話が起ころ、まちが潤うことなどあり得ません。ますます厳しい財政状況であります。高齢化も進むでしょう。

そういう中で、大事なことは、市民一人一人が、我々一人一人が何をやるか。私も何かしなければならぬ。4月から取り組むのですが、市民一人一人が自分で考えて、自分で楽しみながらやる、そしてそれを人と人との間でつないでいく。まず自分が楽しむ、それを人に伝えて、つないでいく、そしてそれをさらに広げていくというようにしてまちづくりが広がっていくのがいいのではないかなと思っております。

どうも長時間、いろいろ熱心に御議論いただきまして、特にパネリストの方々、ありがとうございました。

それから、参加者の皆さん、本当にありがとうございました。

これで終わります。(拍手)

資料 北広島市総合計画（第5次）原案説明資料

北広島市総合計画（第5次）原案

計画策定の趣旨

わが国の社会経済状況や地方自治体を取り巻く環境が大きく変化してきており、少子高齢化の進展、地域主権型社会への流れや環境問題など、地域のまちづくりにおいて対応すべき課題が数多く現れてきています。

この総合計画は、こうした時代の変化や課題に適切かつ速やかに対応し、本市がめざす将来像を明らかにするとともに、その実現に向けたまちづくりの指針とするものです。策定にあたっては、右の視点に留意しました。

- 1 市民と行政の協働による計画
- 2 分かりやすい計画
- 3 地域経営の視点を持つ計画

市の現状と時代の潮流

1 市の現状と特色

人口・世帯：平成21年（2009年）9月末現在の住民基本台帳人口は、80,864人（現総合計画がスタートした平成13年度（2001年度）から2,121人（3.6%）の増加）となっています。

産業・経済：平成17年（2005年）の国勢調査における産業別就業者数の割合は、第3次産業が75.4%と最も多く、第2次産業が19.5%、第1次産業が2.7%となっています。

自然環境：公園や森林などの緑地面積は8,180haで、全市面積の69%を占めています。札幌の近くに位置しながらも、森林から市街地まで多彩な緑がみられます。

交通：札幌市と新千歳空港の中間に位置し、高い交通利便性を有しています。

生活環境：緑の環境、ゆとりある居住環境、安心して子どもを育てられる環境、学びの環境などが充実し、市民生活を支えています。

文化・歴史：明治17年（1884年）、一村形成の志を抱いた和田柳次郎が広島県人の集団入植によって、北広島市の発展の礎がつけられました。

2 市民の意識

市民意識調査結果の概要

- ・「住みがい」とする市民が73.5%を占めています。
- ・各施策項目における満足度は、「衛生的な下水道の整備」が最も高い一方、最も低いのは、「除雪や排雪の充実」となっています。
- ・市民が考える将来のめざすべき姿としては、「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がい者が大切にされるまち」（21.9%）が最も多く、次いで「空気が水がきれいで、豊かな自然環境が守られているまち」（20.2%）が減少しています。

3 時代の潮流

少子高齢化と人口減少社会
環境との共生
産業構造の変化

地域主権型社会への流れ
安全・安心への対応
価値観やライフスタイルの多様化

計画の概要

計画の構成と期間

1 ページ

基本構想の概要

まちづくりのテーマ

自然と創造の調和した豊かな都市

本市は、昭和46年度（1970年度）に広島町総合開発計画を策定して以来、「自然と創造の調和した豊かな都市」をめざしてまちづくりを進めてきました。

これからは、まちづくりのテーマとして「自然と創造の調和した豊かな都市」を継承し、自然や緑の中に、いきいきとした市民の生活や活動、躍動する気運などがあるまちを造ります。

「大都市札幌市に隣接し、豊かな自然が残る」「交通利便性が高い」などの本市の個性を生かし、快適な生活環境の形成に努めることにも、道央圏の機能を担い、活力のある都市づくりを進めています。

めざす都市像

希望都市

子どもと若者がお年寄りとともに希望を育むまち

交流都市

市民が多様に活動し、産業と文化が栄えるまち

成長都市

緑を大切に、着実に成長しつづけるまち

基本目標

めざす都市像の実現に向けて、自然環境を大切にしながら着実に成長し、交流やふれあい、希望や夢を持ち続け、活気ある都市をめざして6つの基本目標を設定します。

- 基本目標1 支えあい健やかに暮らせるまち
- 基本目標2 人と文化を育むまち
- 基本目標3 美しい環境に つつまれた安全なまち
- 基本目標4 活気ある産業のまち
- 基本目標5 快適な生活環境のまち

市民の多様な活動を促進し、協働してまちづくりを実践するまち、行政改革の推進により信頼される行政運営を継続できるまちをつくりたい。

2 ページ

総合計画のポイント

将来人口の設定

次期総合計画期間では、人口や生産年齢人口の減少などが想定されますが、まちの魅力の発信や居住環境の充実、雇用の場の創出などによる定住の促進、子どもを生み育てやすい環境づくりなどに積極的に取り組むとともに、市街化区域外の未利用地の利活用を促進することにより、計画最終年度の平成32年（2020年）の人口が61,500人と設定し、まちづくりを進めていきます。

計画期間における人口の推移

年度	総人口	市人口
平成17年 (2005年)	60,761	59,485
平成19年 (2007年)	61,174	59,485
平成21年 (2009年)	60,864	59,485
平成22年 (2010年)	60,786	59,485
平成27年 (2015年)	63,327	59,485
平成32年 (2020年)	61,500	59,485

計画の進行管理

計画の推進にあたっては、市民生活等に対してどのような成果をあげることができたのかを重視し、限られた経営資源である予算や人材を適切に配分し、効率的な活用を図っていく必要があります。このため、総合計画指標を用いた計画の進行状況、施策や事業の成果などを点検・評価しながら、見直し・改善を行っていきます。

また、行政活動の成果や課題を市民と共有し、課題解決に向けた取り組みを実施することにより、透明性が高く、市民満足度の高い行政運営が図られます。市民参加による計画の進行管理や評価を進めるとともに、「計画・実行・評価・改善」の仕組みをより充実し、行政運営の質的向上・効率化をめざします。

総合計画指標

総合計画指標として、51種類の指標を設定しました。

総合計画指標の例

指標名	指標の説明	現状		目標値	目標値
		数値	比較		
合計特殊出生率	15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値	1.13	平成19年 国 1.34 道 1.19	1.16	1.19
がん検診受診者数	市民を対象として市が実施する胃がん、子宮がん、乳がん、大腸がん、前立腺がんの年間検診受診者数	7,780人	平成20年	11,200人	14,000人
自主防災組織率	全世帯数に対する自主防災組織が結成された地域の世帯数の割合	27%	平成20年 国 71.7% 道 48.1%	45%	70%
観光入込客数	北海道観光入込客調査による市内の観光地（ゴルフ場、ホテルなど）を訪れた年間観光客数	75万人	平成20年 石狩支庁 2,334万人 本市は管内5位 恵庭市 124万人 江別市 82万人	80万人	90万人
市街化区域内の未利用可住地面積	市街化区域内で住宅を建築することができる空き地の面積	134ha	平成20年	125ha	116ha

3 ページ

重点プロジェクト

重点プロジェクトは、幅広い分野の中から特に重点的に取り組む施策を示してメリハリをつけることにも、分野の異なる施策を連携させることによって、効果をさらに高めることをめざしています。3つの重点プロジェクトの推進により、本市の魅力を含め、市内外にアピールすることで、交流人口や定住人口の増加を図り、持続可能な都市経営を推進していきます。

1 子育て支援・人づくりプロジェクト

子どもを安心して生み、健やかに育てられる環境づくりを進めます。また、すべての世代の学習機会を充実し、多様な分野の人づくり、地域の活性化につながる人づくりを進めます。

主要な取組み

- 安心できる子育て
 - ・妊婦・出産・育児に関する保健指導や相談
 - ・子育てニーズに対応する保育サービス など
- 健やかな子ども教育
 - ・学びがいのある学校教育の推進
 - ・子どもの安全対策 など
- いきいきとした人づくり
 - ・生涯学習活動の支援
 - ・個性豊かな地域文化の創造への支援 など

2 にぎわい・魅力づくりプロジェクト

イベントや観光、農業、商工業などさまざまな分野の取組みを結び付け、人・もの・情報の交流を促進し、まちのにぎわいを創出します。また、身近な観光資源などまちの魅力を発掘し、市内外にPRして交流人口や定住人口の増加を図ります。

主要な取組み

- 魅力づくりと情報の発信
 - ・観光資源や魅力の発掘と活用
 - ・多様な手法によるまちのPR など
- にぎわいの創出と交流の促進
 - ・芸術文化の発表や交流の場の提供
 - ・自転車道を活用した広域交流 など
- 活気ある産業の創造
 - ・地産地消の推進
 - ・企業支援や誘致による雇用の拡大 など

3 住みたくなる地域づくりプロジェクト

すぐれた住環境を維持し、ともに支え合い、誰もが住みたくなる地域づくりを進めます。行政だけでなく、地域住民や事業者、市民団体などが連携・協力してコミュニティづくりを進めながら、安心して快適に暮らせる地域づくりを進めます。

主要な取組み

- ともに支え合う地域づくり
 - ・ネットワークによる医療の充実
 - ・高齢者が交流できる場の整備 など
- 住みよい環境づくり
 - ・住宅地の緑化
 - ・住替えや住宅リフォームの支援 など
- 利用しやすい交通
 - ・交通不便者の買い物等の支援
 - ・誰もが利用しやすい公共交通の確保 など
- 地球環境への配慮
 - ・省エネルギー・意識向上の啓発
 - ・緑の保全と緑化の推進 など

4 ページ

資料 講演「地域の宝を活かしたまちづくり」資料

地域の宝を活かしたまちづくり

キャスター・慶應義塾大学大学院教授
林 美香子

自己紹介

農学部卒業後S T Vアナウンサーをへてフリー
「食と農」関連の取材やフォーラムへの参加
北海道大学大学院で「農村と都市の共生による地域再生」の研究
慶應義塾大学大学院で環境・農業の研究プロジェクト担当

まちづくりと私

「札幌駅南口再開発検討委員会」「景観審議会」など
「スノーマン読み聞かせ」
「コンサドーレ」の立ち上げ
「モエレ沼公園の活用を考える会(モエレファンクラブ)」
「農都共生研究会」

北広島島の宝はなに？

自然・風土・景観・歴史・農業・食文化・人材・・・

地域で連携することの大切さ

さまざまな分野の連携が大切
生活者が参加するまちづくり～買い支える
コミュニティカフェ～地域食堂

事例紹介

地域の宝に気づく 地域の宝を活かす 地産地消料理
グリーンツーリズム～直売所・農家レストラン・ファームイン・食育
商店街の事例
農業国フランスの事例～リヨン朝市・農家民宿

これからの望むこと

情報受発信の大切さ・行動する大切さ